

木津川市地域公共交通総合連携協議会 会議結果要旨

会議名	第 66 回木津川市地域公共交通総合連携協議会		
日 時	令和 6 年 3 月 19 日（火） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 15 分		場 所 木津川市役所 第 2 北別館会議室
出席者 〔出席者…■〕 〔欠席者…□〕	委 員	【学識経験者】 ■大庭 哲治委員（副会長） 【市民代表】 ■占部 禎佑委員 ■桑原 久和委員 ■上月 俊行委員 ■平田 克子委員 ■兎本 久和委員 【事業者】 ■野口 明委員 ※代理：得能 啓資（西日本旅客鉄道株式会社京滋支社 地域共生室 主査） □山本 修委員 ■大西 秀樹委員 ※代理：松石 康志（奈良交通株式会社 乗合事業部 統括課長） ■津田 秀夫委員 ※代理：川越 啓史 ■足立 高広委員 ■梅田 幹夫委員 □今西 宏委員 【行政機関】 ■稲留 健一郎委員 ■今城 由貴委員 ※代理：石田 拓也（京都国道事務所 調査係長） ■松永 弘道委員 ■松田 直樹委員 ※代理：石田 真琴（京都府木津警察署 交通総務係長） ■谷口 雄一会長 □久保田 明委員	
	その他	【オブザーバー】 □酒井 大斗委員 □村上 進一委員	
事務局	船岡政策監、茅早事務局長、西村事務局次長、吉田課長補佐、楠見主任		
傍聴者	1 人		
議 題	1. 開会 2. 議事 (1)報告事項 ①奈良交通路線バス再編に係る現在の状況について【資料 1】 ②親子バス乗車体験について【資料 2】 (2)協議事項 ①令和 6 年度予算（案）について【資料 3】 ②木津川市地域公共交通計画（案）について【資料 4】		

	<p>(3) その他</p> <p>①次回協議会の日程について</p> <p>②その他</p> <p>3. 閉会</p>
会議結果要旨	<p>1. 開会</p> <p>事務局より開会の宣言があった。</p> <p>2. 議事</p> <p>議長から運営内規に基づき、会議録の署名委員として桑原委員を指名した。</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>①奈良交通路線バス再編に係る現在の状況について</p> <p>資料1に基づき、事務局から報告があり、確認した。</p> <p>②親子バス乗車体験について</p> <p>資料2に基づき、事務局から報告があり、確認した。</p> <p>(2) 協議事項</p> <p>①令和6年度予算（案）について</p> <p>資料3に基づき、事務局から説明があり、原案の通り承認した。</p> <p>②木津川市地域公共交通計画（案）について</p> <p>資料4に基づき、事務局から提案があり、原案の通り承認した。</p> <p>(3) その他</p> <p>①次回協議会の日程について</p> <p>後日通知することとした。</p> <p>3. 閉会</p>
<p>会議経過要旨</p> <p>◎議長</p> <p>○委員</p> <p>→事務局</p>	<p>1. 開会</p> <p>会議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>①奈良交通路線バス再編に係る現在の状況について</p> <p>【配布資料】資料1</p> <p>【主な意見・質疑等】</p> <p>○2月18日に南加茂台地区で実施した学習会の講師について、教えていただきたい。</p> <p>→立命館大学経営学部の近藤宏一教授が講師となられていた。</p> <p>○説明会以降、住民の意識がどう変わったかというのがとても大事だと思う。</p> <p>この問題は住民の意識が上がっていかないと萎んでしまう。そういう意味で</p>

は、奈良交通の利用状況を住民に共有し、市がバックアップする必要があると思うし、早い段階で情報提供する必要がある。今後、効率的なバス路線を選定していくことが、木津川市としては大事だと思うので、ぜひその方向で検討をお願いしたい。

→情報提供については、奈良交通からの提供待ちなので、出てくれば速やかに共有していきたい。今後のバスルートについても、奈良交通とも一緒に知恵を出していきたいと思う。

◎今後も、関係者間で密に連携を取りながら進めていただきたい。

②親子バス乗車体験について

【配布資料】資料2

【主な意見・質疑等】

◎今回、9割以上が自家用車で参加されているが、次はバスで参加していただけると嬉しいと思う。小さい頃にこういった公共交通の利用体験があると、一人でも公共交通を利用する人が増えるということもありえるので、地道な活動ではあるがぜひ続けていただきたい。

○アンケート結果のP.2の③（普段のバス利用頻度）について、週1日や週2～3日で利用される方はいないということか、週5日以上は全くいないということか。

→グラフの色が分かりにくくなっているが、週1日や週2～3日、週5日以上利用するに該当される方がいなかった。このため、「ほとんど利用しない」の青が76.5%、「月に数回程度」11.8%、「利用したことがない」11.8%が回答の全てとなっている。

◎この取組は、ぜひ次年度も実施することを検討いただきたい。

（2）協議事項

①令和6年度予算（案）について

【配布資料】資料3

【主な意見・質疑等】

◎新規事業として路線再編検討補助業務委託料が計上されているが、これは資料3-2のどこに該当するのか。

→資料3-2の7ページの調査計画費の「12 委託料」に計上している。新規事業については、どこに計上されているかが明確になった方がよいので、ホームページで公開する際に修正しておきたい。

◎この事業は、市域全体の路線再編に向けた委託費なのか、地域に特化したもののなのか。現時点でお話しできる範囲でご説明いただきたい。

→現段階で想定しているのは、地元で積極的に動いていただいているのが南加茂台地域なので、南加茂台地域を対象に調査を行いたいと考えている。

◎周辺地域も含めて実施したほうがより効果的だと思うので、ご検討いただきたい。

→次年度より、フィーダー系統路線への補助については、協議会予算から支出することになる。当初予算には計上しないが、年度途中の補正予算として計上する予定としている。

②木津川市地域公共交通計画（案）について

【配布資料】資料4

【主な意見・質疑等】

○計画として細かいところまで明示されていると思う。市内で一番困っている地域の南加茂台地域では、高齢化が進み、免許返納も増えていて、どうしても公共交通を利用しなければならないという現状となっている。P. 52 に整理されているように、全国的にバス路線の廃止のニュースがある中で、木津川市でうまく解決できればアピールになるし、一番困っている地域で対策を実施することで、より効果がある。全体的な計画としては素晴らしいと思うが、一番困っている地域における具体的な対策に知恵を出していくことが重要である。また、現在、ライドシェアが話題になっていて、宇治市では認められたと聞いたが、木津川市ではタクシーの問題はどうなのか。今後、地域や自治会と話し合いを進めていく際に、他ではないモデル地域をつくるんだというお互いの認識のもとで検討を進めていただくことを提案したい。

→来年度については、ニーズ調査を行う予算を組んでおり、困られているのがどこで、何に困っているのかといった点について精査をしていきたい。南加茂台で起きている高齢化は今後ほかのニュータウンでも起こりうることで、南加茂台地区が今後のモデルになることは確かである。ライドシェアについては情報収集に努めており、宇治市の実績も情報を集めながら、木津川市でも成り立つのか精査をしていきたい。

○計画を絵に描いた餅に終わらず、どう実行していくのか、それぞれの地域にどう落とし込んでいくのかが重要である。ぜひピンチをチャンス変えていただき、地域が立ち上がって、モビリティのあり方を提示していただく方向にもって行っていただきたいので、引き続きのご努力をお願いしたい。

○宇治市の山間部に炭山という地域があり、交通空白地有償運送という既存の制度を使った新たな運行を始めている。きっかけは病院送迎バスが廃止されたことを受けて開始しているが、炭山地区の地域住民が助け合いで移動支援をする、地域の方々が頑張っているということで市も支援している。今、ライドシェアの制度を国でも検討されているが、基本的には既存の公共交通を活用いただいたうえで、地域が足りないところをカバーしていくという点で選択肢が少し増えるという形になる。引き続き、様々な選択肢を踏まえて議論をいただきたい。

○計画案の P. 70 の目標②にガイドラインの記載があるが、今回の計画からガイドラインの記載を抜いたというのは何か理由があるのか？

→前々回の協議会で、南加茂台地区からコミュニティバス運行の提案があり、J R との競合や地元のニーズ把握したうえでということもあり、計画の方針にも関わることだが、P. 66 に計画の基本理念がこれまでの考え方と大きく変わっているところがある。これまでは公共交通の持続可能性に重きを置いたものだったが、今回は、「地域公共交通を“自分ごと”として考え、行動することで、持続性の高いものとしていきます」とあるように、関係者皆がそれぞれで、しっかりと考えていきたいと思いますというところを基本理念として入れ

ている。具体的な施策関係となると、施策１－１の３点目の「路線バスに対する財政支援に基づく運行維持の検討」や、施策１－２の３点目の「路線バスの再編に対応したコミバスネットワークの見直し」を新たな項目かつ重点的な取組として方向性を出している。従来の考え方では、これ以上は乗ってほしいという一定のルールのもとで路線再編を行う考えがあったが、今後は地域も主体となって考えていかなければならないということを踏まえ、施策１－３の２点目で「地域住民が主体となる新たな交通サービスの導入検討・実証運行に対する支援」としている。事務局としては、ある一定の基準は持ちながら、実際に運行したいと住民のニーズと現在のルールが必ずしもマッチングしていない可能性も踏まえ、もう少し地元の要望に柔軟に対応でき、そのうえで、協議会の場で協議ができるようにしている。引き続き、地元の声にも柔軟に対応できるようにネットワーク構築に向けてステップを踏んでいきたい。

○網形成計画のガイドラインの考え方の数値は使っているが、ガイドライン自体はないという理解で良いか？

→事務局として、ガイドラインの数値を一定の基準として数字は持っているが、今回の計画の中で、第２次網形成計画にあるような書き方はしていない。

○それであれば、「ガイドラインに定める」という表現は抜いてしまってよいのではないか。

→ご指摘の通り、計画の中でガイドラインが何なのかははっきりしていないため、資料編で追加するようにしたい。

◎それでは、「コミュニティバス等の持続可能な運行のためのガイドライン」を資料編に加えるということで、事務局のほうで対応をお願いしたい。

○計画はこの通り進めていただきたい。特に次年度予定しているアンケート調査については、今さらニーズを聞いても無料のタクシーが欲しいということになると思うので、アンケートを実施する際は、その点は考慮していただきたい。また、今回のアンケート調査では、現在バスを利用されている方々の実態を把握していただきたい。行先や時間帯など利用されている方の満足することと困っている事を明らかにしない限り、新たに利用者は増えない。現在の利用者に満足されていないサービスは、現在利用していない方が利用しえない。地域全体の意見を聞いて失敗してきたのが全国のコミュニティバスなので、しっかりと現在の利用者の声を聞いていただきたい。

→アンケートの際には先生方にもご相談させていただきたい。

◎今後５年で変化が生じることも大いにありうる。今回、計画を定めるが変更の可能性もある。これをもとに、利用が増えるようにしていきたい。

(3) その他

①次回協議会について

６月末を目途に事務局で調整し、改めて通知させていただく。

②その他

前回の協議会で、高齢者の方からシルバーカー（手押し車）をどうすればよいのか

	<p>というご意見があったと伺い、公共交通だよりで「知っていますか。バスのインターホン」という記事を掲載している。</p> <p>3. 閉 会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	--